

学校研究主題

深い学びにつながる授業づくり～学習の振り返りを通して育む深い学び～

学校番号 2 1 1 金沢市立金石中学校

1 主題設定の理由

本校では、令和2年度より「深い学びにつながる授業づくり」という研究主題のもと、これまでの研究で培った主体的・対話的な学びを生かし、より質の高い学びを目指す「深い学び」が実現できるよう、教員の授業力向上と生徒の学力向上を柱として研究を行ってきた。

今年度は、副題として「～学習の振り返りを通して育む深い学び～」を追加し、学習の振り返りに重点を置いて研究を行う。これは、生徒のアウトプットがより充実した内容になることを目指すことで、深い学びを視覚化しながら改善を進めることができるためである。これまでの主体的・対話的な学びに関する研究を継続しながら、より深い学びにつながるように、この研究主題および副題を設定した。

2 研究内容

(1) 授業力向上の取組

① 研究授業による授業改善

- ・各教科および道徳科、特別支援教育を含めて4チームに編成し、各チーム1回以上の研究授業を実施する。
- ・外部指導者を招聘して指導助言を受ける。

② 教科部会の充実

- ・「主体的な学び」、「対話的な学び」を推進し、「深い学び」につながる教科の研究テーマを決定し実践する。
- ・教科部会を定期的実施し、課題の分析や対応策の検討を行う。
- ・各教科の指針である「学びの手引き」を用いて共通実践につなげる。

③ 校内研修会の充実

- ・全体研修会や校内若手教員研修会を実施する。
- ・ICT 端末の全体研修会を設定し、ICT 端末の活用を促す。

④ 授業スタイルの確立

- ・「自分で みんなで 考える 金沢型学習スタイル 教科編（改訂版）」を意識した授業を工夫する。
- ・授業における重点項目を設定し、共通実践を行い、実施数調査等によって検証する。

⑤ 学力調査およびアンケートをいかした実態把握および改善策の検討

- ・「各種学力調査」、「学習アンケート」、「学校評価アンケート」により現状把握、分析を行い、各教科で改善策を考え、共通実践する。

(2) 学力向上の取組

① 学力を支える基盤づくり

- ・「学習の心得」をもとに、授業の基盤づくりを行う。
- ・自主学習用ノート（ステップアップノート等）により、家庭学習の充実を促す。

- ② 学習の振り返りの充実
 - ・各単元もしくは各小単元において学習の振り返りを行う。
 - ・正しい用語を使用し、教科の見方・考え方を生かした振り返りを促す。
- ③ 学習活動の時間を利用した読書や基礎学力補充の取組
 - ・学習活動の時間に読書活動を推進する。
 - ・時期に応じて、基礎学力補充の学習を行う。
- ④ 生徒会活動と連携した取組
 - ・学習委員会では、自主学習ノートの活用促進の取組を行う。
 - ・各種委員会やリーダー会において学力向上に向けた取組を行う。

3 成果

(1) 授業力向上の取組

今年度は、研究授業に合わせて相互授業参観期間を設けた。指導案検討会で授業参観の視点や重点的な取り組みを確認し、研究授業までの期間に複数の教科で互いに授業を参観する。研究授業整理会では、研究授業の教科だけでなく各教科の実践や工夫を共有し、授業力向上の推進につなげることができた。

学期毎に各教科の教科部会設定し、「各種学力調査」や「学習アンケート」、「学校評価アンケート」にもとに分析と対応策の検討を行った。前回の取り組みを見直し、改善点を考察することで、現状に即した取り組みに変化させながら進めることができた。

(2) 学力向上の取組

副題にある学習の振り返りは、各教科で様々な形式での実践が試みられた。頻度や形式、評価の方法など、この1年の実践を通して形作っていくことができた。また、学習アンケートの生徒記述に振り返りが効果的だったという意見が複数みられ、一部の教科では成果を上げている。

生徒会学習委員会の自主学習ノートの取り組みでは、生徒が関わる部分を増やし、全校集会での告知、選ばれた生徒の表彰など、生徒の動機づけを意識した改善を行った。学習アンケートの「毎日取り組み、提出することができましたか。」の肯定評価は、1学期91%、2学期86%となり、自主学習ノートの取り組みは概ね生徒に浸透したと考えられる。

4 課題

学力向上の重点的に行う取り組みとして、「授業のまとめでは、自分の言葉で表現する場を設定し、確認する。」と設定し、共通実践を行った。学校評価アンケートでは、「授業のまとめを、自分の言葉を使って行うことができた。」(生徒)の肯定評価は80%近い値を維持している。それに対し、「終末のまとめや振り返りが、教師が目指すゴールに近いレベルで生徒によって表現できている。」(教員)の肯定評価は、1学期62%から2学期50%に低下している。教員が見ると課題が残る内容にもかかわらず、生徒に気付かせることができている可能性はある。

学習の振り返りに対しても、同様のことが懸念される。この1年の取り組みにより実践は進んだが、内容を高める指導を充実させることができなかつた。実践数に比例し課題に気付く機会が増えたとも考えることもできるが、生徒が気付いていないのであれば気付かせる必要がある。次年度の学校研究では生徒に理想のイメージを持たせることを意識し、今年度の学校研究を生かしながら進化させていきたい。